

第3学年 道徳 学習指導案

平成28年7月13日

- 1 主題名 正直な心 A-(2) 正直, 誠実
資料名 まどガラスと魚 (文溪)

2 主題について

正直でありたいという思いは、誰もが持っている。正直さは、人と信頼関係を築く上で重要な要素であり、社会が変化し、価値観が多様化しても普遍的である。しかし、過ちや失敗をした時に、自分が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを避けようとし、うそをついたり、ごまかしたりすることがある。しかし、このような姿勢は、あくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決にはつながらない。結果、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念などが生じてしまう。明るい心で、元気よく生活するためには、過ちを素直に認めることが大切である。そこで、正直に行動することのすがすがしさに気づかせ、誠実に生きようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

本学級は、素直な児童が多く、男女仲良く、明るく元気に生活している。学級や学校のきまりなど、大事なことは、しっかり守ろうとする意欲や姿勢が見られる。一方で、自分の価値観や未熟な判断によって過ちを犯した時や友達とトラブルを起こした時、自分の過ちを素直に認め、改めようとしめない児童も見られる。個人の不誠実な対応が、学級全体に影響を及ぼすことも少なくない。そこで、過ちを素直に認めて正直に生きると、その結果、心がすっきりし、周りの人との関係もよりよくなることを感じ取らせたい。

本時の抽出児であるB児は、過ちを犯した時に素直に反省することが未熟な児童である。何かトラブルが生じたときは、自分自身のことに目を向けようとしないで、相手方の批判に終始してしまいがちである。そこで、本時では、登場人物の心情面をしっかりと捉えさせたり、正しい言動を身体表現させたりする活動を通して、自分の過ちを素直に認め、相手に対して誠実に謝ることが、明るい心で楽しく過ごすことにつながることを実感させたい。今後は、進んで自らを素直に正直にふり返り、伸び伸びとした生活を実現することが目標である。

指導にあたっては、授業をユニバーサル化する3つの視点にもとづいて、次のような指導の工夫や手立てを考えた。

焦点化	視覚化	共有化
<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容「過ちを素直に改める」をふまえ、「主人公の立場に立って、自分ならどう謝るか」を身体表現させる。 ・指導内容「正直に明るい心で元気よく生活すること」をふまえ、場面ごとの「謝りたい度」を温度計と心情曲線で表し、過ちを犯したときの気持ちを追体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・謝ることができる場面(3つ)を絵で提示する。 ・個人の「謝りたい気持ちの大きさ」をハートマーク(大・中・小)を使って見える化する。 ・学級での「謝りたい気持ちの大きさ」を心情曲線を使って見える化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2~3人組で自分ならどのようにして謝るのかやってみる。 ・いくつかの組が代表で全体の場で発表する。

3 本時について

(1) 本時のねらい

主人公の心情を考え、ガラスを割ったことを謝る活動を通して、過ちを素直に認め、正直であることのよさに気づき、明るい心で生活していこうとする態度を養う。

(2) 準備物

短冊、場面絵、ハートマーク(大・中・小)、ワークシート①(謝りたい気持ちを表記)、ワークシート②(身体表現で活用)

(3) 本時の学習展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	指導の工夫と評価 ・その他の工夫 ◇評価
つかむ	1 正直について考える学習であることを伝える。 ○自分は正直だと思いますか。	・今の自分と向き合うことが大事なので、正直ではないと答えた児童に対して指導することはしない。
正直な心ってどんな心なんだろう。		
むかう	2 資料を読み、それぞれの場面（3つ）ごとに主人公の謝りたい気持ちの大きさを考える。 ○資料を読むので、後で心に残った場面を教えてください。 ○3つの場面の謝りたい気持ちの大きさを考えよう。 ・しまった、謝らないと。でも友達も逃げているし・・・。 ・謝りたいけど、怒られる。 ・お姉さんのように謝ろう。心がもやもやしたままだと嫌だ。	視①割った直後②張り紙を見た場面③近所のお姉さんが謝りに来た3つの場面を提示し、どの場面が心に残ったかを問う。 ・内容理解を図ることが目的なので、その場面を選んだ理由を問わない。 焦謝りたい気持ちの大きさをワークシートのハートマーク（大・中・小）に塗らせて、その理由を問う。 視謝りたい気持ちの大きさを心情曲線で表す。
ふかめる	3 お詫びの場面を身体表現する。 ◎自分だったら、何と言って謝りますか。どのようにして謝りますか。 ・すぐに謝れなくてごめんなさい。 ・正直に言えなくてごめんなさい。 ・けがはありませんでしたか。これからは気をつけます。 ・家（窓）に向かってボールを投げることはしません。 ・相手の方を見て真剣な顔で ・ごめんなさいの時に頭をさげる ・深く頭をさげる	共焦自分ならどのようにして謝るのかペアで取り組ませる。 ・話し言葉以外に、謝る時に心がけておくことがあれば、くわしく書くように伝えておく。 ・最初は、ワークシートに書いたことを見ながらペアに伝え、2回目は、ワークシートを見ないでペアに伝えさせる。 ・ペア同士で役を交代させる。 ◇正直であることよきを感じ、自分なりの表現で相手に対して、謝ることができる。 ※言葉が見つからない児童には、黒板にある言葉を使って書くよう助言する。 ※いくつかの組に全体の場で発表させ、見た児童に感想を求める。
まとめる	4 学習の感想を書く。 ○正直な心について考えを一文で表しましょう。また、学習で感じたことを書きましょう。 ・正直な心をもって行動すれば、自分も相手も心がすっきりすることが分かった。 ・正直になれば心もすっきり。 ・正直が心を晴れにした。 ・正直が心のもやもやを退治する。 ・正直な心をもったら、できるだけ早く行動にうつすことが大切だと感じた。	共学んだことを端的にまとめる。 ・資料の題を自分なりの表現で表したり、考えたことを合言葉で表現したりすることも認める。 ・配慮を要する児童は、黒板の言葉を使って、学んだことを一文に書くように伝える。

